



特定非営利活動法人 日本歯周病学会

2021年 第1号 (4月)

ニュースレター

〒170-0003

東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内

TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341 <http://www.perio.jp/>

発行人 小方頼昌 編集 広報委員会

【主要コンテンツ】 秋季学術大会関連のご案内 「歯周病専門医」認証に伴う申請について
認定歯科衛生士アンケート結果 認定資格申請のお知らせ 各賞・助成等の選考結果と募集

信頼され、さらに発展する歯周病学会に



理事長
小方頼昌

2020年10月15、16日に開催された理事会および総会において、日本歯周病学会の理事長としてお認めいただきました。初めてのZoomを使用しての選挙・理事会および総会でしたが、スムーズに終了することができました。2021年4月1日から2023年3月31日までの2年間、本学会を任されたことは身に余る重責ですが、信頼される学会であり続けること、そして、さらなる発展のために全力で取り組む所存です。

日本歯周病学会は、1957年に日本歯槽膿漏学会として設立、1968年には日本歯周病学会と改名され、2004年度からは特定非営利活動(NPO)法人日本歯周病学会として再スタートを切りました。会員総数は2020年12月31日現在11,814名を数えます。この数は、日本口腔外科学会とほぼ同数で、日本歯科医学会専門分科会のなかで日本口腔インプラント学会(会員数約16,000名)に次ぐ2番目の会員数であり、歯科衛生士会員が多いことが特徴です。

2016年の歯科疾患実態調査の結果、8020達成者は51.2%で、2011年の40.2%から急増しました。4mm

以上の歯周ポケットを有する者の割合は年齢が増すにつれて高い傾向を示し、45歳以上では50%以上を占め、全年齢層の約40%に歯肉出血が認められます。8020達成者の増加からも、歯周病に罹るリスクを有する歯の数が増加していることがわかります。高い有病率を示す歯周病のなかで、重篤な患者は約10%であると推定され、それ以外は軽度から中等度歯周炎であることから、歯周病検査の結果を基に診断し、歯周基本治療を適切に行い、生活習慣を改善することで、大多数の歯周病の治療・管理が可能ではないかと考えます。

具体的には、以下に挙げた内容を実行し、国民の健康増進に取り組む所存です。1) 多くの国民が罹患する歯周病の予防および治療法のさらなる国民への周知、2) 国民の歯を守るために、歯科医師に対する歯周治療のさらなる啓発、3) インプラント周囲炎の予防と治療法についての見解の明示、4) 急速な高齢化社会に対応した「高齢者に対する歯周治療の指針」の作成、5) 歯周病専門医・認定医ならびに認定歯科衛生士のメリットの再検討と地域偏在への対応、6) 積極的な国際交流活動、アジア太平洋地域との広い交流、7) 研究・臨床・教育に目を向けた若手研究者への支援の強化、8) 中長期での日本歯周病学会のあり方の検討、9) 日本歯科衛生士会との協力強化。

学会活動の充実と活性化を図りながら、会員増を目指し、国民の口腔ならびに全身の健康増進を行っていく所存です。本学会へのご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

追悼 大島光宏 先生



令和2年12月28日0時28分、第63回春季日本歯周病学会準備委員長を務めていただいた大島光宏先生が国立がん研究センター中央病院にて永眠されました(享年63)。謹んでご冥福をお祈りします。

大島先生は、昭和32年のお生まれで、57年に日本大学歯学部をご卒業後、62年に東京医科歯科大学大学院を修了し、日本大学歯学部口腔生化学講座で助手・講師を経られ、平成22年に奥羽大学薬学部教授(生化学)に着任なさいました。留学先は王立カロリンスカ研究所と伺っています。

私が大会長を務めた学術大会の準備委員長就任を依頼した際、大島先生からの要望を受け、シンポジウムIを企画していただきました。大会のメインテーマ「歯周病学のプロフェッショナルリズム—科学知と実践知の融合を目指して—」に沿って演者を選択していただき、歯周病学の既存の概念にパラダイムシフトを起こすべく、歯周炎のプレジジョン・メディシンに向けた研究結果が報告されました。また、大島先生の交友関係から、理化学研究所の林崎良英先生と江崎禎英先生(経済産業省：当時)を教育講演に招聘することができました。コロナ感染拡大に伴う現地開催の中止および代替案としてのWeb学術大会への変更を決定後からは、他学会の情報を参考にしつつ、できるだけ充実した学術大会を実行するためお互い知恵を絞りました。

大島先生はシンポジウムIでもお話しされたように、歯周炎の原因はプラーク(細菌)であるという既存の概念とは異なる仮説に基づいた研究を推進なさいました。既存の概念に疑問をもち、プラーク(細菌)よりも悪玉線維芽細胞がかかわるというご自身の仮説

「悪玉細胞説」を検証する研究を続けられました。“Go where nobody has gone, Do what nobody has done.”多くの著名人が座右の銘として挙げる言葉のとおり、大島先生は最先端の技術を活用し、オンリーワンの研究に挑戦し続けました。また、研究の議論になると一歩も引かないとのことで、大学院生のときには指導教官と激論したと伺ったことがありました。ラグビーで鍛えたであろう、前進する気持ちの強い先生でした。

Web学術大会が終了した8月に食事をした際、腹部が不自然に膨張しているのを尋ねると、地元の病院では鼠径ヘルニアと診断されているとのことでした。しかしその後、国立がん研究センターで精査を受け、希少がんの脱分化型脂肪肉腫であることが判明しました。今思えば、すでに腹水が溜まっていたのだと思います。ラグビーで鍛えた強い精神力が、病気の進行にはマイナスに働いたのかもしれない。

理事会で2024年春季大会を再度福島で開催できる運びになったことを話した際には、大変喜んでいただきました。また、特別講演や認定医講演会の動画を数年後に学会HPで公開するようにすれば、学会のアピールや社会貢献になるのではとアドバイスをいただきました。大島先生に最後にお会いしたのは、10月下旬にアパートの引き払いに来られたときです。抗がん剤治療の影響で体調が悪く、担当医からは最悪年内と言われていると伺いました。12月20日にメールを交わしたときにはリモートで復職する準備を進めているとあり、回復を信じていたのですが、その後、腹水が溜まる速度が急激に増加し、対処できなかったそうです。大島先生が学術大会の運営を通して最後に大きな仕事ができたと誇らしげに話しておられたことをご子息から伺い、少し救われた気持ちになりました。

本学会の発展のため、またご自身の仕事を前進させるために邁進された大島先生の熱意と行動力に敬意を表したいと思います。大島先生、大変お世話になりました。どうぞ安らかに眠りください。

奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯周病学分野
高橋慶壮

第 64 回秋季日本歯周病学会学術大会開催のご案内

令和 3 年 (2021 年) 10 月 15 日 (金), 16 日 (土) の 2 日間にわたり, 名古屋国際会議場において第 64 回秋季日本歯周病学会学術大会を開催いたします。今大会は, メインテーマを「歯周治療でおいしい人生をサポート」とさせていただきます。超高齢社会において長きにわたりおいしく食事をいただくことは, 人生を楽しむうえで肝要であり, 歯周治療が果たす役割は大きいと考えております。さらに, 歯周病サポートセラピーを継続していくことで, さまざまな全身疾患の発症・進行の予防にも貢献できる可能性があり, 患者さんにとっては「食事」と「健康な人生」を楽しむという二重の旨みを得ることができるのが「歯周治療」であることを患者目線で表現したテーマです。このテーマを達成するためには, 歯周病学とそれに関連した免疫学・細菌学, 再生医療, 医歯薬連携 (歯周医学), IoT 等多くの分野との融合による発展が必要であり, 今大会ではさまざまな観点から光を当て, 多くの参加者に有益なプログラム構成となるよう工夫いたしました。

大会 1 日目は, 特別講演として将棋名人を破った AI プログラム「Ponanza」を開発した山本一成先生 (愛知学院大学特任准教授) に「人工知能はどのように名人を超えたのか」をご講演いただきます。また教育講演では, 米国で Faculty として活躍されている祖父江尊範先生 (コネチカット大学口腔衛生・診断科学部門) に「米国における歯周病学教育の現状」についてご講演いただきます。基礎研究に関するシンポジウムとして「炎症性骨代謝に関する新しい潮流」と題し, 骨代謝の研究で近年大きな発見を報告されている石井 優先生 (大阪大学医学部感染免疫医学講座), 箭原康人先生 (富山大学医学部分子医科薬理学講座) および塚崎雅之先生 (東京大学医学部免疫学講座) にそれぞれご講演いただき, 歯周病の骨破壊機序解明の一助したいと思います。臨床に関するシンポジウムとして「予知性の高い口腔機能回復治療の実践」と題し, 新進気鋭の若手補綴医である和田誠大先生 (大阪大学歯学部顎口腔機能再建学講座), 荻野洋一郎先生 (九州大学歯学部口腔機能修復学講座) および上野大輔先生 (上野歯科医院) にご講演いただき, 患者さんのおいしい人生のサポートのヒントになればと考えます。

大会 2 日目は, 特別講演として, 日本における歯周

形成手術の第一人者である瀧野裕行先生 (タキノ歯科医院ペリオ・インプラントオフィス) に「審美領域における難症例攻略のキーポイント」をご講演いただきます。また, IoT に関するシンポジウムとして「医療・健康 ICT による歯科医療の革新～Society5.0 時代～」と題し, 飯村由香理先生 (総務省情報流通行政局情報流通高度化推進室), 森田晴夫先生 (株式会社モリタ) および野崎一徳先生 (大阪大学歯学部附属病院医療情報室) にご講演いただき, 未来の歯科医療に関する方向性を示していただきます。医歯薬連携に関するシンポジウム「歯周病と糖尿病の関係性を礎とした医歯薬連携の実際 (仮題)」では, 実際の現場で連携に携わっておられる先生方にご講演いただき, 現在の状況と今後の課題を浮き彫りにしていく予定です。さらに歯科衛生士エクステンションセミナー (仮題) として, おいしい人生を過ごすうえで重要な食事療法に関して, 宇都宮一典先生 (東京慈恵会医科大学総合健診・予防医学センター) に「歯科衛生士が知っておくべき糖尿病の食事療法の知識」をご講演いただきます。歯科衛生士シンポジウムでは, 歯周治療に重要である禁煙支援に関して「新型タバコ時代の禁煙支援 背景にある歯科関連学会の取組」と題し, 田淵貴大先生 (大阪国際がんセンターがん対策センター疫学統計部), 吉岡貴史先生 (福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンター) および中山洋平先生 (日本大学松戸歯学部歯周治療学講座) にご講演いただき, 明日からの日常臨床に活かしていただければと思います。このほか, 認定医・専門医教育講演, 倫理委員会企画公演, 歯科衛生士教育講演, ランチョンセミナー等多彩なプログラムを現在鋭意準備中です。

学術大会の開催方式に関しては, 新型コロナウイルス感染拡大による未曾有の事態のなかではございますが, 現時点では現地開催できるよう準備しております。このところ各種学術大会の Web 開催が続いており, 現地における face to face での発表や討論ができない状況で, これまででない環境下での学術活動を強いられております。今大会の開催時期における周囲環境は, もちろん予測不能ではございますが, 現段階でできる会場内での感染防御策を講じ, 久々に皆様と顔を合わせて議論する場を提供できることを願っております。また, ここ名古屋の地に赴くことが困難な方もいらっ

しゃることを想定し、現地開催後およそ1カ月以内にオンデマンド配信も行う計画としております。

名古屋での学会大会の開催は、29年ぶりとなります。現地に来ていただいた折には、感染対策に配慮いただきながら、大会メインテーマのごとく参加の皆さんには多くの名古屋名物（味噌煮込みうどん・ひつまぶし・味噌カツ・手羽先・台湾ラーメン等）を“おいしく”味わっていただき、学修とともに充実した時間をお過ごしいただければと思っております。

多数の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

大会長 三谷章雄

(愛知学院大学歯学部歯周病学講座)

1. 会期

2021年10月14日(木)、15日(金)、16日(土)

2. 会場

名古屋国際会議場

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1-1

TEL: 052-683-7711

3. テーマ

「歯周治療でおいしい人生をサポート」

4. 事前参加登録期間

2021年6月1日(火)正午より

8月31日(火)正午まで(仮)

	事前	当日
正会員(歯科医師・医師ほか)	5,000円	8,000円
準会員(パラデンタルを含む 上記以外)	3,000円	6,000円
非会員(歯科医師・医師)	10,000円	13,000円
非会員(上記以外)	5,000円	8,000円
学生(大学院生は除く)	当日のみ	1,000円

5. 演題および抄録登録期間

2021年6月1日(火)正午より

6月30日(水)正午まで(仮)

第64回秋季日本歯周病学会学会大会 事務局

愛知学院大学歯学部 歯周病学講座内

〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11

愛知学院大学歯学部附属病院北館615

第64回秋季日本歯周病学会学会大会 運営事務局

株式会社日本旅行 大阪法人営業統括部 MICE 営業部

〒541-0051 大阪市中央区備後町3-4-1 山口玄ビル

6階

TEL: 06-4256-3869 FAX: 06-6204-1763

E-mail: jspf64@nta.co.jp



©なごやめし普及促進協議会

第64回秋季日本歯周病学会学術大会臨床ポスター (認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター) 発表申込のご案内

学術大会における臨床ポスター（認定医・専門医ポスターおよび歯科衛生士症例ポスター）発表の演題募集は、一般演題とは別になります。下記の要領でお申し込みいただくこととなりますが、受付は学術大会ホームページからのみになりますのでご注意ください（学術大会ホームページには、学会ホームページ <http://www.perio.jp> から入れます）。

演題申し込みおよび抄録作成方法などの詳細はサイト上で公開予定です。認定医・専門医と歯科衛生士症例のポスターカテゴリーごとに必ずご確認ください。なおオンラインでの申し込みが不可能な方は、第64回秋季日本歯周病学会学術大会運営事務局（株）日本旅行 大阪法人営業統括部）までお問い合わせください。

1. 演題発表資格

いずれのカテゴリーとも、筆頭発表者が学会認定資格（認定医・歯周病専門医あるいは認定歯科衛生士）を有している必要はありませんが、筆頭発表者と発表における責任者は本学会会員に限ります。また、本学術大会における筆頭発表は1名1演題までといたします。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。

2. 演題申込および抄録登録期間

2021年6月1日（火）正午より

6月30日（水）正午まで（仮）

※登録期間終了日はアクセス集中によるエントリー遅延・不具合が起りやすいので、それ以前の早めの時期に登録をお済ませください。

演題申し込み時には登録サイトにて、留意事項を必ずご確認のうえで応募くださいますようお願い申し上げます。留意事項を逸脱する行為および演題内容については発表をお断りすることがあります。特に「国内未承認薬・材料・機器の使用」「適応外使用」「未承認治療法」に係る症例は臨床ポスターとしての発表は不可です。また臨床研究発表では所属機関の倫理委員会等の承認、症例報告の場合は患者の同意を得ていることをポスターに明記する必要がありますので、ご注意ください。

3. 臨床ポスター発表の特典

臨床ポスター発表を行うと、筆頭発表者に対して資格申請・更新に必要な所定の研修単位が付与されます（専門医の申請時、および認定医と専門医の更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位、認定歯科衛生士の申請時・更新時の生涯研修単位における業績発表単位は10単位）。

4. 臨床・症例ポスターの発表様式

パネルサイズは高さ210cm×幅90cmといたします。表示形式および表記様式、ポスター討論についての留意事項は学術大会ホームページにてご確認ください。

演題番号の個所や顔写真の掲示場所、承認や同意の記載場所、ポスター討論の時間等細かく規定されていますので必ずご確認ください。なお、演題登録後における抄録の変更や討論時の発表者交代は認められません。ただし、なんらかの事情で発表ができなくなった場合は運営事務局にご連絡ください。

5. ポスター賞について

認定医・専門医優秀臨床ポスター賞は選考対象となることを希望された発表が、ベストハイジニスト賞は歯科衛生士ポスター発表として演題登録いただいたすべての発表が選考対象となります（ただし、留意事項を遵守されていない場合は対象外）。なお、臨床ポスター賞・ベストハイジニスト賞の事前審査をいたします。詳細は学術大会ホームページの演題登録画面よりご確認ください（事前審査提出締切：臨床ポスター賞2021年9月3日（金）、ベストハイジニスト賞2021年9月24日（金））。受賞発表および表彰は次回学術大会（第65回春季日本歯周病学会学術大会）にて行います。その際、受賞ポスターは再掲しますので、発表ポスターの保管にご協力願います。

専門医委員会委員長 吉成伸夫
認定医委員会委員長 山本松男
歯科衛生士関連委員会委員長 坂上竜資

認定医，専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ

日本歯周病学会では、本年度の認定医，専門医・指導医および認定歯科衛生士の申請と更新，ならびにその研修施設および学会認定研修会の申請を受け付けます。各資格についてのタイムスケジュールは以下のとおりです。なお，新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては，予定された日程・会場・方法などに変更が生じる可能性があります。

1. 認定歯科衛生士申請（第33回認定歯科衛生士認定審査）および更新

2021年6月21日（月）：受付開始

2021年7月9日（金）：締め切り（消印有効）

2021年7月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2021年9月頃：（申請者のみ）ケースプレゼンテーション

2021年10月14日（木）：申請・更新合格者を理事会で承認

2021年10月15日（金）：第64回秋季学術大会（名古屋）時に合格発表

2. 専門医・指導医申請（第65回専門医・指導医認定審査）および各資格の更新

2021年7月5日（月）：受付開始

2021年7月23日（金）：締め切り（消印有効）

2021年8月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2021年9月頃：（専門医申請者のみ）専門医認定試験（ケースプレゼンテーションと口頭試問）開催

2021年10月14日（木）：各資格申請・更新合格者を理事会で承認

2021年10月15日（金）：第64回秋季学術大会（名古屋）時に合格発表

3. 認定医申請（第26回認定医認定審査）および更新

2021年7月19日（月）：受付開始

2021年8月6日（金）：締め切り（消印有効）

2021年8月頃：申請および更新に関する書類審査会開催

2021年10月14日（木）：（申請者のみ）筆記試験会場：名古屋国際会議場

申請・更新合格者を理事会で承認

2021年10月15日（金）：第64回秋季学術大会（名古屋）時に合格発表

⇒平成30（2018）年1月1日より，新規認定医申請の際に，本学会が行う倫理に関する講演の受講（1回以上）が義務付けられました。

以上の各資格の申請・更新手続き，申請書類や規則等については，学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）をご確認ください。ホームページに記載された方法に準拠しない申請・更新手続きは無効となります。なお，規則・細則は改訂されることがありますので，ホームページにおける申請受付前1カ月以内の最新の記載内容を確認してください。

研修施設申請・更新のお知らせ

認定医，専門医を養成する歯科医療機関を認定する制度です。申請・更新受付とも期間は2021年7月5日（月）～7月23日（金）（消印有効）です。申請・更新手続きについては，学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）に記載しておりますので，これに従い手続きを行ってください。

認定医，専門医・指導医更新に関わる研修単位を取得できる専門医委員会が認めた歯周病に関する学会および研修会申請についてのお知らせ

歯周病学に関する専門的研修に寄与する学会，指導医等主催による任意の研修会について，研修単位取得対象研修会として認定する制度です。申請期間は2021年7月5日（月）～7月23日（金）です。手続きの方法等を学会ホームページ（<http://www.perio.jp>）に記載しておりますので，これに従い手続きを行ってください。2021年8月末頃までに専門医委員会の審査による認定の諾否を通知いたします。

日本歯科専門医機構「歯周病専門医」認証に伴う新規・更新申請について

日本歯周病学会の歯周病専門医制度は、令和2(2020)年11月2日付で日本歯科専門医機構の専門医制度として認証されました。これを受けて、従来の専門医制度と変更となる点、お願い等についてお知らせします。

1. 歯周病専門医の認証書発行について

従来、歯周病専門医の新規・更新の認定時には、日本歯周病学会からの「歯周病専門医認定証」を送付しておりましたが、今後は日本歯科専門医機構からの「認証書」も発行されることになり、歯周病専門医には2枚の「認証書」が届きます。

※本学会作成「歯周病専門医記念の楯」もご希望であれば引き続き発行いたします。

2. 「歯科専門医検索ナビ」

日本歯科専門医機構のWebサイトにて認証専門医検索用Webページ「歯科専門医検索ナビ」が立ち上がります。同サイト掲載に必要な情報の提供を同意いただいた歯周病専門医・歯周病専門医研修施設につい

ては、本学会より同機構へ情報提供させていただきます。

3. 日本歯科専門医機構「共通研修」について

令和3(2021)年1月29日に日本歯科専門医機構より発出された文書「共通研修に関するご案内と当機構主催共通研修の実施について」により、今後の歯周病専門医の新規・更新申請時には、本学会が定める要件に加えて同機構が定める「歯科専門医共通研修」の受講条件を満たしていることが必要になります。具体的な内容については、学会ホームページに掲載している「日本歯科専門医機構「歯周病専門医」認証に伴う新規・更新申請について(お願い)」をご参照ください。
http://www.perio.jp/file/news/info_210212.pdf

流動的な状況もございますので、今後、取り扱い等の変更が発生する可能性があることをあらかじめご了承ください。これからも、会員各位にはタイムリーな情報を発信させていただきます。

日本歯周病学会認定歯科衛生士のアンケート結果—2007年と2019年を比較して—

日本歯周病学会の認定歯科衛生士制度は、平成17(2005)年に発足しました。認定歯科衛生士を対象として2019年に行ったアンケート調査(対象者1,137名、有効回答者408名、回収率35.9%)の集計結果を報告させていただきます。なお結果の一部に関しては、2007年に行ったアンケート調査(対象者255名、有効回答者127名、回収率49.8%)とも比較検討しております。

1. 2019年調査の認定歯科衛生士の年齢・経験年数は、2007年調査に比べてともに上昇しました(表1, 2)。

2. 勤務形態は、個人開業医に勤務している認定歯科衛生士の割合が増え、常勤の割合が減りました(表3, 4)。

3. 勤務先については、歯科衛生士数が2~5名の歯科診療所が多く、勤務先の40.0%に歯周病専門医が、

41.9%に2名以上の認定歯科衛生士が在籍していました。他学会の認定資格を保有する歯科衛生士が在籍しているのは25.7%であり、日本口腔インプラント学会と日本臨床歯周病学会が多くを占めました(表5)。各種のスタディグループに所属する人の割合は、22.5%でした(表6, 図1, 2)。

4. 認定歯科衛生士申請の志望動機は、両調査時期で変化なく、1位が「歯科衛生士としてのレベルアップを考えた」、2位が「自分の力を試したかった」、3位が「他の歯科衛生士との差別化」、4位が「院長などに言われて」、5位が「取得できると考えたため」でした(表7)。

5. 認定取得後の変化は、2007年が、1位「患者さんを見る目が変わった」、2位「自信がついた」、3位「積極的に色々な研修会等に参加しよう」と意識が変わった」でした(表8)。2019年は、1位「自信がついた」、

表1 回答した認定歯科衛生士の年齢

	2007年	2019年
年齢		
平均年齢	38.2歳	43.7歳
最高年齢	59歳	70歳
最低年齢	26歳	27歳
年齢層	人数	人数
21～30歳	26名	15名
31～40歳	57名	149名
41～50歳	32名	152名
51～60歳	12名	70名
61歳～	0名	20名
	n=127	n=408

表3 勤務先

	2007年	2019年
1 個人開業医	70.9% (90名)	76.2% (311名)
2 歯学部付属病院	15% (19名)	6.6% (27名)
3 公立病院歯科	1.6% (2名)	2.5% (10名)
4 医学部付属病院 歯科	1.6% (2名)	0.5% (2名)
5 個人病院歯科	1.6% (2名)	1.7% (7名)
6 公立歯科診療所	0.0% (0名)	0.5% (2名)
7 健保組合診療所	1.6% (2名)	0.5% (2名)
8 教育機関	1.6% (2名)	4.7% (19名)
9 その他	4.7% (6名)	6.9% (28名)
無回答	1.6% (2名)	0.0% (0名)
	n=127	n=408

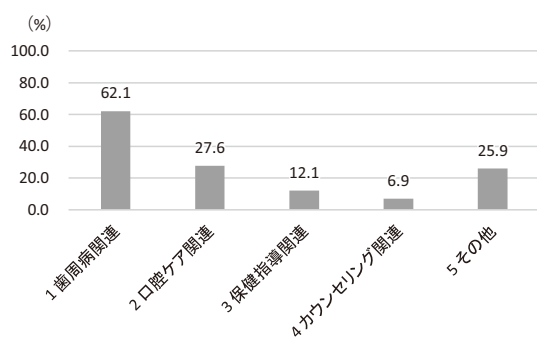


図1 所属しているスタディグループの内訳 (複数回答)

n=58 (2007年)

2位「他の歯科衛生士の見目が変わった」、3位「患者さんの見目が変わった」でした(表9)。

6. 日本歯周病学会の教育講演に希望するテーマは、1位が「SPT時の根面カリエスへの対処」、2位が「有病者への歯周治療」、3位が「歯周治療をベースとした口腔保健管理」でした(表10-1)。その他の希望する教育講演テーマは、表10-2に示します。

表2 歯科衛生士経験年数

	2007年	2019年
経験年数		
平均経験年数	16.5年	21.4年
最長経験年数	38年	52年
最短経験年数	6年	5年
経験年数別人数		
6～10年	37名	38名
11～15年	25名	79名
16～20年	34名	87名
21～25年	14名	88名
26～30年	10名	54名
31～35年	7名	36名
36年～	0名	26名
	n=127	n=408

表4 勤務形態

	2007年	2019年
1 常勤	81.0% (103名)	67.4% (275名)
2 非常勤	8.7% (11名)	26.5% (108名)
3 (歯周治療のみの)フリーランス	6.3% (8名)	3.4% (14名)
4 その他	2.4% (3名)	2.7% (11名)
無回答	1.6% (2名)	0.0% (0名)
	n=127	n=408

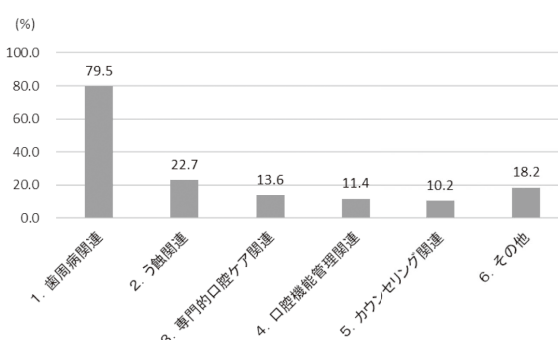


図2 所属しているスタディグループの内訳 (複数回答)

n=92 (2019年)

本アンケート調査の結果、日本歯周病学会の認定歯科衛生士の臨床経験年数は平均21.4年でした。日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会としましては、歯周病治療の最前線で長年にわたって活躍される認定歯科衛生士の皆様に敬意を表しますとともに、今後もできるかぎりのサポートをしたいと考えております。また認定歯科衛生士の皆さんには、地域の歯科衛生士のレ

表5 勤務先職員

		2007年		2019年	
1 歯科医師数	平均	9.9名/件	16.7名/件		
	1名	39件	107件		
	2～5名	47件	184件		
	6～10名	13件	59件		
	11～15名	7件	14件		
	16～20名	0件	2件		
	21～30名	1件	7件		
	31～40名	2件	0件		
	41～50名	3件	1件		
	51名～	5件	17件		
2 歯科衛生士数	平均	6.5名/件	6.8名/件		
	1名	8件	26件		
	2～5名	66件	208件		
	6～10名	27件	97件		
	11～15名	9件	26件		
	16～20名	1件	6件		
	21～30名	0件	17件		
	31～40名	5件	1件		
	41～50名	1件	0件		
	51名～	0件	4件		
3 他職種 (上記以外)	平均		10.4名/件		
	1名		51件		
	2～5名		144件		
	6～10名		57件		
	11～15名		6件		
	16～20名		5件		
	21～30名		3件		
	31～40名		10件		
	41～50名		1件		
	51名～		10件		
4 歯周病専門医	いる	43.6%	40.0%		
	1名	29件	107件		
	2～5名	7件	39件		
	6～10名	6件	16件		
	11～15名		1件		
	いない	56.4%	60.0%※		
5 自身以外の 日本歯周病 学会認定歯 科衛生士	いる		41.9%		
	1名		74件		
	2～5名		87件		
	6～10名		10件		
	いない		58.1%※		
6 他の学会専門 医（認定医）	いる	53.0%	45.1%		
	いない	47.0%	54.7%※		
7 他学会認定 歯科衛生士	いる		25.7%		
	いない		74.6%※		

※2019データにおいて、0名を「いない」にカウント

表6 スタディグループ

	2007年		2019年	
所属している	45.7%	(58名)	22.5%	(92名)
所属していない	54.3%	(69名)	77.5%	(316名)
	n=127		n=408	

表7 認定歯科衛生士申請志望動機（複数回答）

	2007年		2019年	
1 歯科衛生士としてのレベルアップを考えた	83.5%	(106名)	84.3%	(344名)
2 自分の力を試したかった	48.0%	(61名)	39.2%	(160名)
3 他の歯科衛生士との差別化	31.5%	(40名)	35.8%	(146名)
4 院長などに言われて	29.1%	(37名)	27.9%	(114名)
5 取得できると考えたため	26.0%	(33名)	26.2%	(107名)
6 歯科衛生士教育年限の延長を意識して	11.0%	(14名)	3.7%	(15名)
7 その他	7.9%	(10名)	5.6%	(23名)
無回答	1.6%	(2名)	0.0%	(0名)
	n=127		n=408	

レベルアップに指導的立場で貢献していただきたいと願っています。学術大会における歯科衛生士教育講演のテーマにつきましては、希望を積極的に取り入れていく予定です。また何かご要望やご提案等がございま

したら、学会事務局にご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

歯科衛生士関連委員会

表8 認定後変わったこと（複数回答）2007年

1	患者さんを見る目	48.8% (62名)
2	自信がついた	47.2% (60名)
3	積極的に色々な研修会等に参加しようと意識が変わった	32.3% (41名)
4	患者さんの見る目	26.8% (34名)
5	積極的に専門誌を見るようになった	25.2% (32名)
6	昇給した	22.8% (29名)
7	院長の見る目	15.7% (20名)
7	他の歯科衛生士の見る目	15.7% (20名)
9	今までと同じ	15.0% (19名)
10	歯周病学会（歯科衛生士セッション）で発表しようと思う	13.4% (17名)
11	その他	5.1% (9名)

n = 127

表9 認定後変わったこと（複数回答）2019年

1	自信がついた	61.5% (251名)
2	他の歯科衛生士の見る目	36.3% (148名)
3	患者さんの見る目	34.6% (141名)
4	院長の見る目	27.7% (113名)
4	積極的に色々な研修会等に参加しようと意識が変わった	27.7% (113名)
6	昇給した	26.0% (106名)
7	今までと同じ	21.6% (88名)
8	積極的に専門誌を見るようになった	17.2% (70名)
9	歯周病学会（歯科衛生士セッション）で発表しようと思う	9.8% (40名)
10	その他	3.7% (15名)
11	患者さんを見る目	0.0% (0名)

n = 408

表10-1 歯科衛生士教育講演に希望するテーマ（複数回答）2019年

1	SPT時の根面カリエスへの対処	240名
2	有病者への歯周治療	215名
3	歯周治療をベースとした口腔保健管理	194名
4	高齢者への歯周治療	174名
5	専門的口腔ケア	147名
6	若年者への歯周治療	143名
7	在宅医療における歯周治療	109名
8	その他	23名

表10-2 歯科衛生士教育講演に希望するテーマ（自由記載）2019年

医科との連携
 医科歯科連携
 ペリオドンタルメディスン
 栄養指導
 高齢者関連が多すぎる、もっと歯周治療の深い内容が聞きたい
 歯科衛生ケアプロセス
 摂食嚥下
 歯科疾患と全身疾患の関係
 歯周病になる前に、どのような検査、管理、栄養指導や生活指導を行えば歯周病が防げるのか
 歯周病にならないための方法を聞きたい
 正しい検査、診断について
 長期症例（SPTの工夫）
 海外における歯周治療の現状
 咬合の影響
 洗口剤や歯磨剤
 認定歯科衛生士の育成について

学術賞・研究助成・地域活動賞・若手研修会の集いのご案内

下記の募集を行います。いずれも学会ホームページにて詳細をご確認ください。

申請期間：2021年4月19日～6月18日（1～3）、

2021年2月1日～5月31日 ※消印有効（4）

申請書類提出用ユーザー名：JSP-2021（1～3）

申請方法：ホームページからの申請（1～3）。郵送（4）

1. 第21回日本歯周病学会学術賞（2021年度）

本賞は、会員のうち歯周病学において継続して優れた業績を上げた研究者の功績を讃えることを目的に設けられました。副賞としてライオン株式会社のスポンサーシップを得ており、本賞（学術賞盾）のほかに副

賞20万円と盾（LION Award）が贈られます。応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

http://kokuhoken.sakura.ne.jp/jsp/form_science/

2. シーズ育成若手奨励研究助成（2021年度）

本会では若手会員を対象とし、わが国における歯周病の研究・教育・医療および予防を推進することにつながるシーズ研究を奨励することを目的として、シーズ育成若手症例研究助成を制定しております。応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

http://kokuhoken.sakura.ne.jp/jsp/form_seeds/

3. 企画調査研究助成（2021～22年度）

本会では、わが国における歯周病の研究・教育・医療および予防を推進することにつながる多施設研究を推進することを目的として、企画調査研究助成を制定しております。応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

※2018年度より研究助成期間が2年間となりました。次回の募集は2023年4月（2024～25年度実施分）となります。

http://kokuhoken.sakura.ne.jp/jsp/form_project/

4. 地域活動賞（2021年度）

歯周病の予防・治療を通して、地域住民の健康増進に寄与した優れた活動業績を上げられた団体を表彰することを目的として、地域活動賞を制定しております。応募資格をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

<http://www.perio.jp/member/award/regional.shtml>

5. 第7回若手研究者合宿（旧・若手研究者の集い合宿研修会）

本研修会は、若手研究者のリサーチマインドをさらに活性化することを目的としております。秋季学術大会に合わせて開催される講演会と懇親会を含む1泊2日の合宿形式のイベントです。詳細につきましては、秋季学術大会の演題募集時期に合わせて学会ホームページで通知いたします。

歯科衛生士教育講演・臨床研修会のご案内

歯科衛生士教育講演

今年度は兵庫県・愛媛県での開催を予定しております。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況を鑑み、開催日時・方法を決定いたします。詳細はホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

臨床研修会

今年度は愛媛県・群馬県・沖縄県・福井県での開催を予定しております。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の状況を鑑み、開催日時・方法を決定いたします。詳細はホームページで通知いたします。

<http://www.perio.jp/member/>

各賞・助成選考結果

シーズ育成若手奨励研究助成（2020年度）

倉治竜太郎

（日本歯科大学生命歯科学講座・生命歯学部歯周病学講座兼任）

「歯周病原細菌による腸内ディスバイオシスと肝虚血再灌流障害の関係証明：歯周病学アプローチに基づく肝移植の臨床成績向上を目指して」



第20回学術賞（2020年度）

前川知樹

（新潟大学大学院医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター）

「内因性抗炎症分子 DEL-1 誘導による歯周病治療法の基盤研究」



加治屋幹人

(広島大学大学院医系科学研究科歯周病態学研究室)
「歯周組織再生を目指す新規サイトカイン療法と細胞治療の基礎研究」



第18回会誌賞(2019年度)

基礎分野 「Lactoferrinはヒト歯肉線維芽細胞において細胞増殖と創傷治癒を促進する—in vitro研究」61巻(1):18-27, 2019

鈴木苗穂

筆頭著者所属:東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野,ライオン株式会社研究開発本部



臨床分野 「多施設後ろ向き観察研究による臨床指標としての歯周炎症表面積の基準値」61巻(4):159-167, 2019

井上裕貴,畑中加珠,山本直史,平田貴久,三辺正人,山本龍生,内藤 徹,山本松男,佐藤秀一,石幡浩志,稲垣幸司,三谷章雄,中島啓介,漆原譲治,高柴正悟
筆頭著者所属:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野



優秀臨床ポスター賞(第63回春季学術大会)

最優秀賞ポスター賞

首藤明日香

(大分・医療法人セント会セント歯科)
「広汎型重度慢性歯周炎の患者に対し歯周組織再生療法を行った1症例～橋本病(慢性甲状腺炎)との関連を考察する～」



優秀賞ポスター賞

永原隆吉

(広島・医療法人社団 日本鋼管福山病院)
「経口抗菌療法を併用した歯周基本治療が奏功した広汎型侵襲性歯周炎の7年経過症例」



ベストハイジニスト賞(第63回春季学術大会)

小林梨江

(岡山・はら歯科医院)
「患者の生活環境と全身状態の変化に配慮した慢性歯周炎の15年経過症例」



2020年度功労賞

佐藤製薬株式会社

2020年度地域活動賞

「歯と口と健康づくり推進事業」協議会
「歯周病予防～ヘルスリテラシーを身に着けた逞しく生きる児童・生徒の育成として～」
全国健康保険協会広島支部
「事業所における歯周疾患検診促進に関する普及啓発事業」

「若手合宿研修」2020年度活動報告：コロナ下における新たな取り組みを模索中

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響により、2020年秋季学術大会が現地開催からウェブ開催へと変更となったため、秋季学術大会に併せて毎年開催しております「若手研究者の集い合宿研修(2020年より「若手合宿研修」へ名称変更)」は、2020年は残念ながら開催にいたりませんでした。本合宿研修は「若手研究者への留学のすすめ」を基本理念に2014年に初開催され、毎年、歯周病やその関連分野での著名な研究者による基調講演と、活発に研究活動をされている中堅研究者による留学体験に関するご講演をいただいております。これまで参加いただいた若手研究者の先生方にとっては、著名な先生方と気さくに話せ、自らの将来を展望する良い機会であったと思います。

しかしながら、現在の新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮しますと、たとえ学術大会が現地開催できるような状況に改善したとしても、合宿研修という枠組みで研究者が集えるようになるにはさらに年数が必要と思われます。そこで、若手合宿研修ワーキン

ググループでは、ウィズコロナ・ポストコロナ時代にただ手をこまねているわけではなく、若手研究者の皆様と全国の経験豊富なベテラン・中堅研究者間あるいは若手研究者間をつなぎ、若手研究者のリサーチマインドの活性化と若手研究者間の交流促進を行う方法を模索しております。Web conference を利用し、若手研究者が興味のある research topic のブレインストーミングに参加できる場所を設けるなど、若手研究者が能動的に参加できる企画を考えておりますのでご期待ください。

本ワーキンググループの日ごろの活動にあたりまして、ご尽力をいただいております学会のあり方委員会委員長の高柴正悟先生、ご協力をいただいておりますワーキンググループの先生方に感謝を申し上げます。

ワーキンググループ 2020 年度幹事
鈴木茂樹（東北大学）

日本歯周病学会会誌のご案内

前回のニュースレター以降、日本歯周病学会会誌に掲載されました論文をご紹介します。日本歯周病学会会誌は2015年よりオンライン化され、J-STAGEで閲覧できます。また、発刊に合わせてメールアラートを配信しておりますので、学会にメールアドレスを登録されていない会員各位におかれましては、本学会ホームページよりご登録をお願いします。

日本歯周病学会会誌

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/perio/-char/ja>

日本歯周病学会会誌 Vol. 62 (2020) No. 3

• ミニレビュー

「新しい日本での歯周病治療と歯周病専門医の展開」

高柴正悟

• 原著

「九州歯科大学附属病院受診患者を対象とした歯科専門用語の理解度調査」

白井通彦, 鬼塚 理, 笠井信吾, 佐野孝太郎,
花谷智哉, 木尾哲朗, 中島啓介

• 症例報告レビュー

「重度慢性歯周炎の症例における治療計画の立て方」

東 克章

• 症例報告

「広汎型侵襲性歯周炎患者の25年経過の一症例」

林 尚史, 林 玲子

「骨格性下顎前突症を伴う広汎型慢性歯周炎患者の包括治療」

石田直之, 山口正人, 高田匡基, 各務秀明, 山田一尋,
石岡康明, 上原龍一, 尾崎友輝, 石原裕一, 増田宜子,
吉成伸夫

日本歯周病学会会誌 Vol. 62 (2020) No. 4

• 総説

「歯周病原細菌に対する歯周組織局所の免疫応答が及ぼす全身疾患への影響に関する研究」

應原一久

• ミニレビュー

「カルプロテクチンの歯周病病態における多様な役割と歯周病診断マーカーとしての可能性」

坂本英次郎, 廣島佑香, 木戸淳一, 西川泰史, 成石浩司, 木戸理恵, 湯本浩通

• 原著

「剝離性歯肉炎患者に対するエクオール検査とサブリメンテーション (第1報)」

川本亜紀, 菅野直之, 吉沼直人, 佐藤秀一

「職域成人の歯周病検診への全顎6点法検査の導入—歯周病検診における評価法の検討—」

室田和成, 深谷千絵, 片山明彦, 庵原英晃, 森川 暁, 井原雄一郎, 中山亮平, 那須真奈, 飯島佑斗, 奥原優美, 宮下陽子, 宮下達郎, 中川種昭

• トピック紹介

「歯周病とがん：オミックス時代のペリオドンタルメディスン」

永井 淳, 坂上竜資

• 症例報告

「歯科衛生士による糖尿病を有する歯周病患者の長期管理症例」

岡部早苗, 長野孝俊, 五味一博

• JSP/JACP ポスターセッション抄録集

役員名簿

日本歯周病学会役員 (令和3 (2021) 年4月1日~令和5 (2023) 年3月31日)

理事長	小方頼昌						
常任理事	稲垣幸司	岩田隆紀	梅田 誠	河口浩之	木下淳博	五味一博	齋藤 淳
	坂上竜資	佐藤秀一	佐藤 聡	申 基喆	高柴正悟	辰巳順一	多部田康一
	中島啓介	西村英紀	沼部幸博	野口和行	三谷章雄	山本松男	湯本浩通
	吉成伸夫	吉村篤利					
前理事長	村上伸也						
庶務担当	佐藤秀一	(幹事 西田哲也)	監 事	伊藤公一	永田俊彦		
			会計担当	申 基喆	(幹事 中山洋平)		
名誉会員	安孫子宜光	雨宮 璋	新井 高	池田雅彦	石川 烈	伊集院直邦	和泉雄一
	伊藤公一	伊東隆利	上田雅俊	上野和之	恵比須繁之	太田紀雄	大塚吉兵衛
	岡田 宏	岡本 莫	岡本 浩	栗田克爾	加藤 熙	龜山洋一郎	鴨井久一
	岡田 豪洋	川瀬俊夫	川浪雅光	栗原英見	斎藤和子	齋藤 滋	雫石 聰
	島内英俊	下野正基	末田 武	滝口 久	田中昭男	谷口威夫	角田正健
	出口真二	永田俊彦	中村治郎	二階宏昌	西原達次	野口俊英	野村慶雄
	原 宜興	船越栄次	堀内 博	前田勝正	宮下 元	宮田 隆	村井正大
	村山洋二	矢嶋俊彦	山田 了	横田 誠	吉江弘正	渡邊達夫	
	Alice DeForest	Gregory J. Seymour	Martin A. Taubman	Pierre C. Baehni			
	Thomas E. Van Dyke						

評 議 員 □理事長 ●副理事長 ◎常任理事 ○理事

北海道大学大学院歯学研究院	杉田典子(総合病院, 講)	日本歯科大学生命歯学部
○菅谷 勉(歯周・歯内, 教)	高橋直紀(総合病院, 講)	◎沼部幸博(歯周病, 教)
田中佐織(大学病院, 講)	明海大学歯学部	伊藤 弘(歯周病, 准)
北海道医療大学歯学部	◎申 基喆(歯周病学, 教)	関野 愉(歯周病, 准)
○古市保志(歯周・歯内, 教)	林 丈一朗(歯周病学, 准)	○仲谷 寛(総合診療, 教)
加藤幸紀(歯周・歯内, 講)	○荒木久生(総合臨床歯科学, 教)	大澤銀子(総合診療, 准)
○長澤敏行(臨床教育管理運営, 教)	溝部健一(保存回復学, 講)	小川智久(総合診療, 准)
森 真理(大学病院, 講)	東京医科歯科大学	南 こずえ(総合診療, 講)
岩手医科大学歯学部	◎岩田隆紀(歯周病学, 教)	日本歯科大学新潟生命歯学部
○八重柏 隆(歯周療法学, 教)	青木 章(歯周病学, 教)	◎佐藤 聡(歯周病, 教)
村井 治(歯周療法学, 助教)	片桐さやか(歯周病学, 講)	両角祐子(歯周病, 准)
東北大学大学院歯学研究所	竹内康雄(歯周病学, 講)	大森みさき(総合診療, 講)
○山田 聡(歯内・歯周, 教)	◎木下淳博(教育メディア開発学, 教)	高塩智子(総合診療, 講)
根本英二(歯内・歯周, 准)	○荒川真一(生涯口腔保健衛生学, 教)	葛城啓彰(微生物, 教)
奥羽大学歯学部	東京歯科大学	平野恵実(歯科衛生士科, 衛)
○高橋慶壮(歯周病学, 教)	◎齋藤 淳(歯周病学, 教)	日本大学歯学部
新潟大学大学院歯学総合研究科	富田幸代(歯周病学, 准)	◎佐藤秀一(歯周病, 教)
◎◎多部田康一(歯周診断・再建学, 教)	今村健太郎(歯周病学, 講)	菅野直之(歯周病, 准)
川瀬知之(移植・再生学, 准)	○石原和幸(微生物, 教)	吉沼直人(歯周病, 准)
小林哲夫(総合病院, 准)	伊藤太一(口腔インプラント学, 准)	西田哲也(歯周病, 講)

今井健一(細菌, 教)
 日本大学松戸歯学部
 □○小方頼昌(歯周治療, 教)
 中山洋平(歯周治療, 准)
 高井英樹(歯周治療, 講)
 目澤優(歯周治療, 講)
 中村悦子(歯科衛生室, 衛)
 昭和大学歯学部
 ◎○山本松男(歯周病, 教)
 滝口尚(歯周病, 准)
 小出容子(歯周病, 講)
 須田玲子(大学病院, 講)
 神奈川歯科大学
 ○三辺正人(歯周病, 教)
 青山典生(歯周病, 准)
 両角俊哉(歯周病, 准)
 菅谷彰(歯学教育, 教)
 ○児玉利朗(横浜クリニック, 教)
 田村利之(大学病院, 教)
 浜田信城(微生物, 教)
 小牧基浩(横浜クリニック, 准)
 鎌田要平(横浜クリニック, 講)
 鶴見大学歯学部
 ◎○五味一博(歯周病, 教)
 長野孝俊(歯周病, 准)
 白川哲(歯周病, 講)
 八島章博(歯周病, 講)
 渡辺孝章(短期大学部, 教)
 小林一行(短期大学部, 准)
 吉川景子(附属病院, 衛)
 松本歯科大学
 ◎○吉成伸夫(保存(歯周), 教)
 宇田川信之(口腔生化学, 教)
 音琴淳一(健康増進口腔科学, 教)
 田口明(歯科放射線学, 教)
 西窪結香(大学病院, 衛)
 朝日大学歯学部
 ◎○辰巳順一(歯周病, 教)
 北後光信(歯周病, 准)
 合田征司(歯周病, 講)

安田忠司(歯周病, 講)
 友藤孝明(社会口腔保健学, 教)
 荒木美穂(歯科衛生士専門学校, 衛)
 愛知学院大学歯学部
 ◎○三谷章雄(歯周病, 教)
 菊池毅(歯周病, 准)
 林潤一郎(歯周病, 准)
 西田英作(歯周病, 講)
 ○福田光男(特殊診療科, 教)
 ◎○稲垣幸司(短期大学部, 教)
 長谷川義明(微生物学, 教)
 大阪歯科大学
 ◎○梅田誠(歯周病, 教)
 田口洋一郎(歯周病, 准)
 前田博史(口腔治療学, 教)
 大阪大学大学院歯学研究科
 ○村上伸也(口腔治療, 教)
 北村正博(口腔治療, 准)
 野崎剛徳(附属病院, 准)
 徳島大学歯学部
 ◎○湯本浩通(歯周歯内, 教)
 木戸淳一(歯周歯内, 准)
 成石浩司(歯周病科, 講)
 稲垣裕司(歯周病科, 講)
 尾崎和美(口腔保健支援学, 教)
 伊藤博夫(予防歯学, 教)
 岡山大学学術研究院医歯薬学域
 ◎○高柴正悟(歯周病態学, 教)
 ○森田学(予防歯科学, 教)
 山本直史(歯周病態学, 准)
 大森一弘(大学病院, 講)
 広島大学歯学部
 水野智仁(歯周病態学, 教)
 ◎○河口浩之(大学病院, 教)
 九州歯科大学
 ◎○中島啓介(歯周病, 教)
 白井通彦(歯周病, 准)
 村岡宏祐(クリニカルセラピー開発, 講)
 九州大学大学院歯学研究科
 ◎○西村英紀(歯周病, 教)

讃井彰一(大学病院, 講)
 福田隆男(大学病院, 講)
 福岡歯科大学
 ◎○坂上竜資(歯周病, 教)
 吉永泰周(歯周病, 准)
 ○永井淳(地域連携センター, 教)
 ○金子高士(口腔医療センター, 教)
 米田雅裕(総合歯科学, 教)
 田中芳彦(機能生物化学, 教)
 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
 ◎○野口和行(歯周病, 教)
 白方良典(歯周病, 准)
 中村利明(大学病院, 講)
 長崎大学大学院医歯学総合研究科
 ◎○吉村篤利(歯周歯内, 教)
 鵜飼孝(医療教育開発センター, 教)
 尾崎幸生(歯周歯内, 助教)
 慶應義塾大学
 ○中川種昭(歯科・口腔外科, 教)
 森川暁(歯科・口腔外科, 講)
 神戸常盤大学短期大学部
 柳田学(口腔保健学科, 教)
 高橋由希子(口腔保健学科, 衛)
 静岡県立大学短期大学部
 吉田直樹(歯科衛生学科, 准)
 太成学院大学
 大浦清(看護学部, 教)
 東京歯科大学短期大学
 杉戸博記(歯科衛生学科, 教)
 日本医科大学
 ○鴨井久博(歯科, 教)
 日本歯科大学東京短期大学
 ○野村正子(歯科衛生科, 衛)
 松澤澄枝(歯科衛生科, 衛)
 九州看護福祉大学
 金子憲章(口腔保健学科, 教)
 (特非) 日本臨床歯周病学会
 ○高井康博(理事長)
 (公社) 日本歯科衛生士会
 ○茂木美保(副会長)

一般関係(五十音順)

赤堀康(愛知県)
 浅原洋士(徳島県)
 新井英雄(岡山県)
 ○有田博一(東京都)
 飯野文彦(東京都)
 池田康男(静岡県)
 池田頼宣(東京都)
 石谷昇司(東京都)
 ○石原裕一(東京都)
 市丸英二(佐賀県)
 市村光(埼玉県)
 伊藤正満(愛知県)
 岩本義博(香川県)
 内川宗敏(長野県)
 内田剛也(神奈川県)
 内田雄士(広島県)
 梅村昌孝(愛知県)
 ○江澤庸博(東京都)
 遠藤憲行(岩手県)
 大石慶二(香川県)

大江丙午(岡山県)
 ○大野友三(愛知県)
 岡部京平(京都府)
 奥田一博(新潟県)
 長田豊(長崎県)
 小田茂(東京都)
 片山明彦(東京都)
 加藤義弘(北海道)
 ○金子至(長野県)
 鎌田征之(東京都)
 上條博之(長野県)
 亀井英彦(栃木県)
 川村浩樹(東京都)
 菊池重成(東京都)
 北村秀和(東京都)
 ○木村英隆(福岡県)
 久保田健彦(新潟県)
 熊谷敦史(岩手県)
 黒柳隆穂(愛知県)
 郷家英二(東京都)

香坂陽介(山口県)
 河野寛二(奈良県)
 後藤邦之(愛知県)
 小林宏明(東京都)
 斉田寛之(埼玉県)
 佐瀬聡良(千葉県)
 真岡淳之(滋賀県)
 澤田弘一(岡山県)
 汐見登(静岡県)
 洪川義宏(北海道)
 島袋善夫(大阪府)
 清水宏康(東京都)
 白木雅文(岐阜県)
 杉田裕一(茨城県)
 杉山貴志(神奈川県)
 鈴木基之(東京都)
 関野仁(東京都)
 瀬戸口尚志(鹿児島県)
 田井秀明(新潟県)
 高井靖子(群馬県)

高島昭博(福岡県)
 高橋潤一(東京都)
 滝川雅之(岡山県)
 竹内泰子(東京都)
 田中秀樹(福岡県)
 田中真喜(神奈川県)
 谷真彦(長崎県)
 谷芳子(長崎県)
 谷口崇拓(長野県)
 多保学(埼玉県)
 土岡弘明(千葉県)
 土井伸浩(広島県)
 富井信之(新潟県)
 ○中井貴子(新潟県)
 長縄敬弘(愛知県)
 二階堂雅彦(東京都)
 西原迪彦(福岡県)
 新田浩(東京都)
 ○東克章(熊本県)
 菱川敏光(愛知県)

平野 治朗(神奈川県)	穂坂 康朗(東京都)	宮尾 益佳(新潟県)	吉田 茂(福岡県)
平野 裕之(京都府)	町頭 三保(鹿児島県)	村上 弘(福岡県)	○若林 健史(東京都)
○廣瀬 哲之(神奈川県)	松下 健二(愛知県)	村田 雅史(新潟県)	渡辺 和志(埼玉県)
藤川 謙次(東京都)	三浦 真由美(福岡県)	村橋 慶宣(大阪府)	渡辺 久(神奈川県)
藤田 剛(三重県)	水上 哲也(福岡県)	茂木 信道(神奈川県)	
藤本 淳(岩手県)	溝部 潤子(大阪府)	梁川 輝行(岩手県)	
保坂 均(群馬県)	峯 柴 淳二(岡山県)	山下 素史(福岡県)	

賛助会員

医歯薬出版(株)	サンデンタル(株)	白水貿易(株)
エビス(株)	三宝製薬(株)	(株)白鵬
(有)エルバ	(株)ジーシー	ヒューフレディ・ジャパン合同会社
長田電機工業(株)	(株)松風	(株)フィリップス・ジャパン
(株)ガイドデント	昭和薬品化工(株)	プランネットワークス(株)
花王(株)	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)	プロクター・アンド・ギャンブル・
科研製薬(株)	ジンマー・バイオメット・デンタル	ジャパン(株)
クインテッセンス出版(株)	(株)	ホワイトエッセンス(株)
グラクソ・スミスクライン・コン	ストローマン・ジャパン(株)	(株)マイクロテック
シューマー・ヘルスケア・ジャパン	タカラベルモント(株)	(株)モリタ
(株)	デンタルプロ(株)	(株)ヨシダ
合同酒精(株)	デンツプライシロナ(株)	ライオン(株)
小林製薬(株)	(株)トクヤマデンタル	ライオン歯科材(株)
佐藤製薬(株)	(株)ニッシン	(株)ワイディエム
サンスター(株)	日本歯科薬品(株)	

(五十音順)

日本歯科医学会役員（令和3（2021）年4月1日～令和5（2023）年3月31日）

理 事	小方 頼昌		
評 議 員	齋藤 淳	五味 一博	沼部 幸博
予備評議員	佐藤 秀一	佐藤 聡	申 基 詰

【お願い】 名称の変更・所属評議員の異動等ありましたら、すみやかに事務局までご連絡ください。

編 集 後 記

新年度の始まりです。昨年度は、新型コロナウイルス感染対策に追われた1年でした。

今年度より小方頼昌先生が新理事長に就任され、本学会としてもこの困難な情勢の中で新たなチャレンジの年になると思います。今号の巻頭には、小方新理事長よりその決意をお示しいただき、“歯周病を予防し、歯を守ることで、国民の健康増進に取り組む”というビジョンが示されております。他にも、認定医、専門医・指導医および認定歯科衛生士制度についてのお知らせ、皆様の関心が高い「日本歯科専門医機構「歯周病専門医」認証に伴う新規・更新申請」について掲載し、必要な対応を紹介しております。歯科衛生士関連委員会のアンケート結果の記事では、認定歯科衛生士制度が歯科衛生士のキャリア形成の一翼を担っていることがわかります。その他、各賞・助成等の選考結果と募集など盛り沢山の内容です。また、本学会の発展にご尽力された故大島光宏先生への追悼文も掲載しております。

最後に、第64回秋季学術大会の開催案内もぜひご一読ください。新型コロナウイルス感染の影響で学術大会はオンライン開催が続いておりますが、ワクチン接種の実施が始まったこともあり、秋の大会は現地開催を計画しております。長いトンネルを抜けた先の未来には、新しい社会が待っていると思います。名古屋の地で、Face-to-Faceで、歯周病学と学会の未来について皆さまと語り合えることを切に願っています。

(広報委員会委員長 三谷章雄)